

アドバイザーとの意見交換から誕生した 連載コラム「水の余話」

2020年9月末、当センターのアドバイザーを務める沖大幹さん、古賀邦雄さん、陣内秀信さん、鳥越皓之さんにお集まりいただき、機関誌『水の文化』の特集テーマやセンター活動について意見交換しました。

皆さんとお話するなかで、「機関誌のなかに、ホッと一息つけるような和みのページがあったらいいね」というアドバイスをいただきました。

そこで、新連載「水の余話」が生まれ、まずはアドバイザーの皆さんが自らリレーコラムをご執筆くださることになりました。記念すべき第1回目は鳥越さんをお願いしました。次回はどなたになるのか？ご期待ください！



お集まりいただいたミツカン東京ヘッドオフィス付近を日本橋川から望む。ここはかつて、船で酒粕酢を江戸まで運んだ荷揚げ場所であった



往時の古賀河川図書館

「古賀河川図書館」の蔵書の一部が 久留米大学御井図書館HPから 検索できるようになりました！



機関誌『水の文化』の連載「水の文化書誌」の執筆者で、当センターのアドバイザーでもある古賀邦雄さんは「古賀河川図書館」を主宰しています（現在は調査・相談のレファレンスに対応）。

2020年（令和2）3月2日、所蔵していた河川、湖沼、水の書籍およそ1万冊を久留米大学御井図書館に寄贈。御井図書館内に「古賀邦雄河川文庫」が開設されました。

そして2020年11月1日より、整理が完了した4000冊が久留米大学御井図書館ホームページから検索できるようになりました。残りの蔵書の整理にはあと1年ほどかかるようですが、新刊書、古書も追加で寄贈し、随時検索可能にしていこうです。

ただし、少なくとも2021年3月末日まで新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、学外の方は御井図書館を利用できませんのでご注意ください（利用再開時期は未定）。まずは書籍の検索にご利用いただければと思います。

古賀さんは「日本一の河川図書館を目指します。書物の寄贈などにぜひご協力ください」と話しています。



<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/miilib/>



蔵書検索ページ

【文献検索の方法】

- ①インターネットで「久留米大学御井図書館」を検索
- ②久留米大学御井図書館のホームページの項目「図書・雑誌を図書館で探す」の1行目「OPAC（蔵書検索）」をクリック
- ③通常検索のところ項目を記入。例えば「利根川」と打ち込むと135件がヒットする。「筑後川」で97件、「ダム工事誌」で49件
- ④所蔵欄に「古賀邦雄河川文庫」と記された図書が古賀河川文庫の蔵書

機関誌『水の文化』制作について

ミツカン水の文化センターで発行しております機関誌『水の文化』66号につきましては、感染防止対策を徹底しつつ取材活動を行ないました。取材先の皆さまには、顔写真撮影に関してマスクを外していただくなどのご協力をお願いいたしました。この場をお借りして御礼申し上げます。

また、ご好評いただいております連載「食の風土記」「魅力づくりの教え」「Go! Go! 109水系」はやむを得ず休載といたしました。67号以降も感染防止対策を徹底したうえで、機関誌『水の文化』を制作してまいります。

水の文化 Information

■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

■「水にかかわる生活意識調査」ホームページで公開中

20年以上にわたり、ほぼ同じ内容で日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化に関する生活意識調査を実施しています。結果はすべて公開していますので、ぜひご利用ください。

皆さまの感想を お待ちしております！

『水の文化』66号について、アンケートにご協力ください。
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<http://www.mizu.gr.jp/form66.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX: 03-3568-4025

メールアドレス: mizubun@mizu.gr.jp

編集後記

有形無形の水遺産を大切に受け継いでいる地域の話がうかがい、守り使い続けていくことは当たり前のごとで、生活の中で無意識に接している様子をうかがうことができた。それは我々の「水」への意識に近い感覚であり、当たり前前に「水」を大切にすることを育んでいきたいと思う。(五)

小4の息子はコロナ禍で浄水場見学が中止された。自分が使う水についてリアリティがないままになりそうに危機感をもった。水遺産が作られた時代とは比べ物にならないが、自分を支える水にきちんと向き合えるよう、見学が再開されたら浄水場に連れて行かねばと強く思った。(松)

偶然見かけた水路脇の看板に「黒鉄」と書かれていて、各地に存在するという黒鉄がここにもいたのだとひとつ発見をしました。広瀬さんのお話を伺う前の自分なら気に留めなかつたはずの2文字。見えるものがちょっとだけ増えて、文化を知ることの醍醐味を改めて感じました。(瑞)

自宅の近くに「玉川上水・内藤新宿分水散歩道」という場所があります。実際は地下水をポンプで汲み上げ循環しているようですが、かつて江戸の町に水を届けた玉川上水の歴史的景観を再現したあの場所も、立派な水遺産になるのではないかと思います。(飯)

青鬼塚の清掃に、学生時代に所属した研究室が参加していると耳にした。学食あたりで時間をつぶしていると、先生から「〇〇村に行くけど、ついてくるか？」と声がかかり、「なんだか面白そうだ」くらいの感じで同行していたの思い出す。今もそんな空気があるのなら嬉しい。(秋)

水遺産で思い浮かべたのが、以前取材で訪れた「通潤橋」だ。熊本は台地で形成され、水が取れない場所が多かったという。そんな台地から台地へ水を渡し、潤してきた。これも江戸期に藩ではなく地域住民が中心となってつくりあげたもの。ぜひ『水の文化』35号もご覧ください！(力)

ネイティブアメリカンは「7世代先」を考えて物事を検討し、多数決ではなく全員が納得するまで幾日も話し合うという。栃木県を流れる川のひとつで「取水計画中止」の顕彰碑を見たことがあるが、「つくるう」としたけれどやめる」こともまた後世への水遺産となるのだろうか。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第66号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

発行日

2020年(令和2年)12月 初版1刷

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授

古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会

陣内秀信 法政大学名誉教授

鳥越皓之 大手前大学学長

中庭光彦 多摩大学教授

制作

浦本五郎

松本裕佳

久保田瑞季

青木広実

小林夕夏

久保悦史

飯野真奈実

編集製作

前川太一郎 編集

中野公力 デザイン・撮影

蔵田 豊 デザイン

執筆

秋山健一郎 (pp.10-17)

佐々木 聖 (pp.18-23, pp.28-31)

手塚ひとみ (pp.32-35)

前川太一郎 (pp.6-9, pp.24-27)

撮影

大平正美 (p.24)

川本聖哉 (pp.18-23, pp.28-35, p.38)

鈴木拓也 (p.39)

藤牧徹也 (p.3, p.6, pp.14-17)

描画

赤木あゆ子 (p.12, p.37)

印刷

中塾総合印刷株式会社

※禁無断転載複写転写